

令和5年度

学校図書館の活用にかかる

実践事例集

岩手県学校図書館協議会

実践事例集の発刊にあたって

岩手県学校図書館協議会 会長 照井 大道

この度は、関係者の皆様の多大なるご尽力をいただき、岩手県学校図書館協議会の研究活動振興事業の一つである、「学校図書館の活用に係る実践事例」について発刊できますことに、厚く御礼を申し上げます。

今年度の総会において、これまで隔年で開催してきた岩手県学校図書館研究大会の今後の持ち方について御協議いただき、東北大会岩手大会開催時に抱き合わせた形で開催することとしました。本協議会の運営を支える財源状況のひっ迫により（児童・生徒数や読書感想文集販売収益の減少等）、事業内容の見直しを図らざるを得ない現状がその背景にあり、苦渋の決断となりました。

今年度、有住小学校を会場に開催した研究大会（気仙大会）は、公開授業や実践発表から、子どもたちの豊かな心を育むための学校図書館の重要な役割を、改めて実感する機会となりました。中でも実践発表は、「読書指導」「情報活用」「学校図書館運営」の各領域から、県内各地で行われている大変貴重な実践を紹介いただきました。研究活動振興事業として発刊している本実践事例集は、各地区SLAよりこうした優れた実践をお寄せいただき編集しており、本が好きで本を読みに来る子どもたちのための図書館、授業で活用し学ぶための図書館、情報を検索し必要な情報を得るための図書館という役割を果たすためのヒントにつながる内容でもあります。研究大会として参集した形で意見交流や協議をする機会は減ることとなりますが、学校図書館を活用した教育を推進していくため、今後一層、本事例集の充実を図るとともに、各地区・学校に有効活用していただけるよう、周知に努めてまいりたいと思っております。

結びに、本実践事例集の作成に当たり、実践をお寄せいただいた各学校の先生方や司書の皆様、今年度の事業の推進にご協力を賜りました関係の皆様に感謝と御礼を申し上げ、発刊にあたっての御挨拶といたします。

目 次

◆ 小学校 ◆

- 「仙北小の図書ボランティアと協働で行う図書館運営」
盛岡地区SLA 盛岡市立仙北小学校…1
- 「子どもたちの読書意欲の向上を目指す取り組みを通して」
岩手地区SLA 岩手町立川口小学校…2
- 「毎日読書をする子どもの育成を目指して」
八幡平地区SLA 八幡平市立安代小学校…3
- 「読書の楽しさを感じる図書館教育」
雫石地区SLA 雫石町立御明神小学校…4
- 「読書活動の充実を目指して」
紫波地区SLA 紫波町立日詰小学校…5
- 「子どもたちの豊かな読書生活を目指して」
花巻地区SLA 花巻市立笹間第一小学校…6
- 「情報を収集・活用して学びを深める児童の育成 -情報及び情報技術の効果的な活用-」(情報活用領域)
遠野地区SLA 遠野市立綾織小学校…7
- 「読書生活の充実を目指して」
北上・和賀地区SLA 北上市立和賀東小学校…8
- 「読書が好きな子ども達」
胆江地区SLA 奥州市立衣川小学校…9
- 「読書する心を養い、豊かな読書生活を通して、調和のとれた人間性を育てる取り組み」
一関地区SLA 一関市立川崎小学校…10
- 「読書活動の充実のために」
住田地区SLA 住田町立世田米小学校…11
- 「進んで読書に親しむ子どもを育てるために」
陸前高田地区SLA 陸前高田市立横田小学校…12
- 「児童が本に親しむための読書指導を目指して」
大船渡地区SLA 大船渡市立大船渡小学校…13
- 「図書行事・読書運動を活性化させ、本に親しむ習慣を育成する取組」(読書活動領域)
釜石・大槌地区SLA 釜石市立釜石小学校…14
- 「幅広い読書活動による児童の豊かな心情の育成を目指した図書館教育について」
宮古地区SLA 宮古市立千徳小学校…15
- 「子供たちの読書意欲を高める学校図書館教育に向けて」
岩泉地区SLA 岩泉町立有芸小学校…16
- 「本が好きな子の育成を目指して」
久慈地区SLA 洋野町立中野小学校…17
- 「読書を楽しみ、親しむ子どもの育成を目指して」
二戸地区SLA 九戸村立戸田小学校…18

◆ 中学校 ◆

- 「図書館を通し読書に親しむ環境作りについて」
盛岡地区SLA 盛岡市立仙北中学校…19
- 「読書活動の充実のために」
岩手地区SLA 岩手町立川口中学校…20
- 「読書活動の充実を目指して」(読書指導領域)
八幡平地区SLA 八幡平市立西根第一中学校…21
- 「国語科と図書委員会を中心とした図書室利用の読書推進活動」
紫波地区SLA 矢巾町立矢巾中学校…22
- 「活気あふれる図書館を目指して」
花巻地区SLA 花巻市立花巻北中学校…23
- 「読書活動を通して、豊かな学びと喜びを」
遠野地区SLA 遠野市立遠野東中学校…24
- 「読書活動の充実のために」
北上・和賀地区SLA 北上市立南中学校…25
- 「図書館利用人数を増やすための取り組み」
胆江地区SLA 奥州市立衣川中学校…26
- 「図書館の魅力の発信 ～「思わず入ってみたいくなる図書館」への工夫～」
一関地区SLA 一関市立花泉中学校…27
- 「手の届くところに本を」
陸前高田地区SLA 陸前高田市立高田第一中学校…28
- 「新たな学びの拠点を目指して」
大船渡地区SLA 大船渡市立第一中学校…29
- 「読書への関心を高める取り組みについて」
釜石・大槌地区SLA 釜石市立釜石東中学校…30
- 「読書に親しむ生徒の育成」
宮古地区SLA 宮古市立宮古西中学校…31
- 「図書館運営について」
岩泉地区SLA 岩泉町立小本中学校…32
- 「読書に親しむ生徒の育成を目指して」
久慈地区SLA 洋野町立種市中学校…33
- 「学校図書館利用を促すための取組を通して」
二戸地区SLA 二戸市立福岡中学校…34

1 学校図書館の概要

本校は、児童数639名、24学級（特別支援3学級含）で、約14,000冊の蔵書を有している。図書館運営は、司書教諭と図書担当教員1名、図書委員会児童、PTA図書ボランティア「ひだまり」（週1～3）で行っている。

図書室は3階本館（3～6年生利用）と1階分館「ほんのひろばわくわく」（1～2年生利用）、3年棟・4年棟のワゴン分館（各約100冊）、6年棟のキャリア教育・歴史分館、各学級の分館図書約40冊に分けて設置し、児童数に比べて狭い図書室が密にならずに、有用的に機能するよう環境を整備している。

2 具体的実践内容

（1）図書ボランティア「ひだまり」の活動と実績

＊仙北小の図書ボランティアは、PTAと地域ボランティアの構成で「読み聞かせ部」と「修理部」に分かれて作業を行っている。感染症の影響で活動も登録人数も減少傾向にあったが、昨年度から「読み聞かせ部」の活動が活発化したことで児童の貸出冊数も増加してきている。同時に「修理部」の作業が追いつかなくなってきたことで、「読み聞かせ部」も修理の講習を受け協力して活動を行っている。

＊図書祭りや読み聞かせの装飾、クリスマスプレゼントなど全て手作り。読み聞かせ・修理・イラスト・工作・消しゴム版画などそれぞれに達人が揃っている。

①読み聞かせ

- ・毎週水曜日の業間に低・高学年に分けて実施。
- ・4月 新1年生…「ウエルカムおはなし会」
- ・7月 1・2年…「七夕おはなし会」
- ・10月 3年生…「読み聞かせについて（キャリア教育）」
- ・11月 図書委員…「読み聞かせ講習会」、5・6年…「落語・狂言・宮沢賢治おはなし会」
- ・12月 1・2年…「クリスマスおはなし会」
- ・3月 卒業生…「はなむけのおはなし会」

②環境整備

- ・本棚の整理（月・水・金）
- ・季節毎に図書室の飾り付け
- ・図書館祭りの飾り付け（今年度は「大谷翔平グッズ」を制作し期間中展示）

③本の修理（年間通して）

- ・県立図書館から修理の仕方の講習を受け、技術の向上を図っている。
- ・長期休業中に集中して補修を行っている。

④教科学習の関連図書の選書

（2）様々な本への興味を広げる手立て

- 朝の貸出の際に「おすすめの本」をどの本を借りようか迷っている子の相談に乗る。
- 読み聞かせした本や関連した本の展示、図書祭りの福袋の選書 等
- 「ひだまりの木」の葉の形にした児童の感想を季節毎に掲示

3 成果と課題

（1）成果

- ・1日約400冊、イベント時は約1,000冊以上を貸出す本校の最大の協力者で、児童が日常的に本に親しむ環境を整えることができている。

（2）課題

- ・司書教諭と図書ボランティアとの打ち合わせや共同作業の時間の確保。

1 学校図書館の概要

本校は、児童数111名、教職員21名の中規模校である。

図書室は、2階のオープンスペースにあり、明るく開放的な雰囲気である。開館は、業間休みと昼休みで、図書委員が本の貸出しや図書の整理などを行っている。また、図書支援員の協力も得て、児童が利用しやすい図書室の環境整備や読書活動の推進に努めている。その他に、町立図書館の移動図書館「おおぞら号」も利用し、学級文庫の本や個人で読む本を借り、学級での本も充実している。

2 具体的実践内容

(1) 図書委員を中心とする読書活動の推進

①様々な本に触れるための図書ビンゴ

1学期の読書週間では、多くのジャンルの本に親しんでもらえるように、本の種類を書き込んだカードを作成し、本を読んで図書委員からスタンプをもらう活動を行った。マス目にスタンプが並んでビンゴとなると、図書委員が作ったしおりをプレゼントした。図書館に足を運ぶ児童が増え、いろいろな種類の本を借りる良い機会となった。



②たくさんの本を読むための読書スタンプラリー

2学期の読書週間（図書まつり）では、目標冊数を決めたカードを作成し、1冊読むごとにスタンプをついてももらう活動を行った。低・中・高学年によって目標冊数を変えて、どの学年も達成しようと意欲的に取り組んだ。また、目標冊数の中に「いわ100きっず」の冊数も決めて、必ず読むよう勧めた。



(2) 「いわ100きっず」の図書コーナーの設置

昨年度「いわ100きっず」が改訂されたことに合わせて、100冊の本を揃えてコーナーを設けた。また、児童用にリストを作成し、読んだ印をつけながら、6年間で100冊読破を目指している。図書委員の「おすすめの本の紹介」も掲示し、呼び掛けている。

(3) 長期休業における読書カード

長期休業中にも図書館を開館し、読書を習慣化するために「読書カード」を全校児童に配付している。片面には、読んだ本の中で心に残った本を「おすすめの本」として書き、何点か掲示している。

(4) ボランティアによる読み聞かせ

水曜日の昼のスキルアップタイムを読書の時間に設定している。そして、毎週1学級ずつ、地域のボランティアによる読み聞かせを行っている。毎回、その学年にふさわしい本を選んでいただき、児童も楽しみにしている。

(5) 多読者、目標達成者の表彰

学期ごとに、各学年のたくさん読書した児童3名に、多読賞の表彰を行っている。図書館だよりや放送などでも紹介している。また、3学期末は、学年の読書目標冊数を読んだ児童全員に達成賞をあげている。

(6) 絵本給食

絵本の中に出てくる料理を献立とした「絵本給食」の日に合わせて、昼の放送でその絵本の紹介をしたり校内での展示を行ったりした。

3 成果と課題

〈成果〉

- ・図書委員による読書スタンプラリーや、図書ビンゴの取組によって、多くの児童が図書室に通うようになったり、今まで手にしなかったジャンルの本に触れる機会が多くなったりした。
- ・「いわ100きっず」を本校での必読書を設定することで、本を選ぶのが苦手な児童も本を選ぶ拠り所となった。

〈課題〉

- ・読書量の個人差があり、少ない児童への意欲のもたせ方が課題である。

「毎日読書をする子どもの育成を目指して」

八幡平地区SLA 八幡平市立安代小学校

1 学校図書館の概要

本校は旧安代町内の5校が統合され、平成15年度に開校された。開校当初に比較すると児童数は減少し、近年は児童数が100名を切る状況が続いている。蔵書数は7,000冊以上(学校図書館図書標準の達成状況は120%強)で充実している。3年前より「まなびフェスト」に「よく読み、よく考え、共に学び合います。」という項目を設け、平日30分以上の読書と読んだ本について友達と交流する時間を設けることを目標として指導を行っている。

2 具体的実践内容

① 朝読書の時間の設定(月曜・金曜各15分間)

② 年間読書目標冊数の設定(低学年100冊 中学年80冊 高学年60冊)

③ 学年必読書の取組(50冊読破)

図書館司書の協力で各学年の国語の教科書に係る図書50冊(同一作者・同一ジャンルの読物や教科書に掲載されている本など)を選書し、一覧表にシールをはりながら読破を目指す。

④ 読書月間(6月・11月)の設定

安代っ子読書の木の葉(1人1枚)にシールをはっていき、読書意欲を促す。期間中には図書館司書や図書委員会の子の読み聞かせも昼休みに行った。

⑤ おすすめの本紹介カードコンクールの開催

PTA知育部の取組で夏休み中に「おすすめの本紹介カード」を子どもたちが書き、夏休み明けにホールに掲示すると共にPTA知育部で審査をして優秀作品を選ぶ。

⑥ 図書まつりの開催

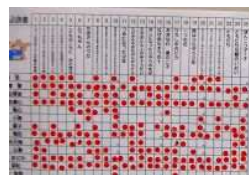
図書委員の企画で児童会行事として開催。クイズやゲーム、おすすめの本の紹介など図書に係る内容で楽しむと共に読書への意欲を高める。

⑦ 読書年賀状の取組

友達へ年賀状を出す形でおすすめの本を紹介する。冬休み中の取組で休み明けに図書委員で審査してよい作品を掲示する。



図書館前の安代っ子読書の木と各学級の廊下掲示板の必読書読破の表



図書委員会の他に図書ボランティア(月1回)や図書館司書(読書月間に毎週)も読み聞かせを行う。



今年の図書まつりはおすすめ本クイズ、おすすめ本かるた、おすすめ本列車をして盛り上がった。縦割り班のグループ対抗で教員も参加して楽しんだ。

3 成果と課題(成果○, 課題△)

○図書委員会の読み聞かせは大好評で、低学年は読まれた本をよく借りるようになった。

○図書祭りのゲームの中でインタビューをし、どの子もおすすめの本を答えることが出来るようになった。

△必読書を借りても読まずに返す児童もいるので多様なジャンルの本を楽しんで読めること。

1 学校図書館の概要

本校は、全校71名の小規模校である。図書室の書棚は、分類や本のジャンル毎に整理してあり、読みたい本を見つけやすくなっている。図書室の近くには、木のぬくもりを感じる椅子とテーブルが置いてあるスペース（通称ひだまり）があり、休み時間に本を読んでいる子も多い。

地域の図書ボランティア「みかん」さんが、月末の水曜日に、学団ごとに本の読み聞かせをしてくださっている。また、「おはなしの雫」さん（1・2年へ）や、からまつ文庫さん（各学団ごとへ）が、年に1回、本の読み聞かせを行っている。本の修繕に関わっては、学校図書支援ボランティアの「しずくいし図書隊」の方々が、2か月に1回程度、本の装丁や修理、棚の整理整頓に来てくださっている。

2 具体的実践内容

（1）読書習慣の取組

ア 朝読書

- ・月・水・金の8：15～8：30

イ 家読への取組

- ・家庭学習カードに10分間の家読を位置付けている。

ウ 読書の記録

- ・学期毎に目標冊数と読んだ冊数を記入している。
- ・心に残った1冊の感想を記入している。



（2）図書委員会の活動

- ア 今月のおすすめの本（季節や行事に合った本）を決め、借りて読んだ子にシールをあげる活動をしている。

イ 7月の読書祭り

- ・本の紹介（各学年から）
- ・読み聞かせ・・・今年度は、図書委員が、「本に興味をもち、図書室に本を借りに来る」をテーマに紙芝居をチームごとに作り、パワーポイントを利用して読み聞かせをした。

ウ 11月の読書月間

- ・「読書すごろく」を学年ごとに作り、本を読んだらサイコロを振り、出た目のところの本を読んだ。ゴールをしたら、2冊券としおりをあげた。

エ 本の読み聞かせ

- ・朝読書の時間に図書委員が、本の読み聞かせをした。（学期ごと）
- ・図書室で休み時間に本の読み聞かせをした。



3 成果と課題

○図書委員会の活動やボランティアさんの読み聞かせのおかげで、図書室に通う子が増えてきている。

また、自分が好きな本やおすすめの本を紹介し合って、本に親しんでいる様子が見られる。

●読書量に個人差があり、選ぶ本には偏りが見られる。これからのいろいろな活動を取り入れ、読書の楽しさを感じられるようにしていきたい。

「読書活動の充実を目指して」

紫波地区 SLA 紫波町立日詰小学校

1 学校図書室の概要

本校は、全校児童 385 名の中規模校である。図書室は 2 階にあり、8620 冊の蔵書はデータベース化されている。業間と昼休みに図書委員が本の貸出や整理を行っている。また、図書コーディネーターが週 1 回来校し、季節に応じた装飾や図書の設置など児童が楽しく利用しやすいように環境整備を行っている。

2 具体的実践内容

(1) 読書タイム

毎週月曜日の朝活動の時間を「読書の時間」としている。

主に、読み聞かせボランティア「本のしずく」の方々に読み聞かせを行っていただいている。

(2) 図書委員会の活動

① 読書ビンゴ（6 月）

達成者には「3 冊貸し出し券」を配布するなど意欲を高める工夫をしている。

② 図書祭り（11 月）

読み聞かせ、くじ引き（本を借りると、くじが引ける）、クイズ、POP コンクールなどを行い、読書への関心を高める活動を行っている。

(3) 親子読書

長期休みの読書を推進する目的で「親子ふれあい読書」に取り組んでいる。親子で一緒に本を読み、感想を書いて交流する機会としている。

(4) 多読賞の表彰

年間目標冊数（低学年 60 冊、中学年 40 冊、高学年 20 冊）を設定している。学年末に達成者を表彰している。

3 成果と課題

〈成果〉

- ・図書委員会を中心に、読書に親しんでもらうための活動を行うことができた。
- ・図書コーディネーターを中心に図書室の環境整備を行うことができた。
- ・本の読み聞かせを楽しんで聞く態度が育っている。

〈課題〉

- ・読書習慣を育てる取組を継続して行う。
- ・児童が主体的に読書の楽しさを発信できるような活動も取り入れたい。

「子どもたちの豊かな読書生活を目指して」

花巻地区 S L A 花巻市立笹間第一小学校

1 学校図書館の概要

本校は、令和5年度に笹間第二小学校と統合した。児童数 113 名 8 学級の中規模校である。図書室は、2 階にあり、蔵書およそ 6, 4 0 0 冊をデータベース化している。2 階には、1・2 年教室もあり、低学年は図書室を利用しやすい環境である。開館は、業間休みと昼休みで、図書委員が本の貸し出しや本の整理などを行っている。

2 具体的実践内容

(1) 蔵書を充実させるために

令和4年度は、令和5年度の笹間第一小学校と笹間第二小学校の統合に向けて蔵書を整理する為、昭和に購入された書籍と破損が激しい書籍を中心に約 2, 2 0 0 冊の廃棄作業を行った。今年度は、新刊を 1 0 0 冊程度購入するとともに、笹間第二小学校の児童が選んだ本などを中心に笹間第二小学校の図書室から約 5 0 0 冊移管した。

(2) 「いわ 1 0 0 きっず」コーナーの設置

笹間第二小学校の図書室に設置していた「いわ 1 0 0 きっず」コーナーを引き継ぎ、笹間第一小学校の図書室に設置。学年ごとに色分けして低・中・高の学年表示ラベルを本に貼り、児童が本を借りる時のめやすにしている。



(3) 「読書おもいで帳」の活用

本校は、市立図書館の移動図書館車「ぎんが号」が毎月 1 回巡回することもあり、児童に市立図書館の「利用者カード」と「読書おもいで帳」を持つことを奨めていた。令和4年度から図書室のシステムをデジタル化したことを機に、借りた本の題名を記録することができる「読書おもいで帳」専用のプリンター機を導入し、一人一人が「読書おもいで帳」を持つことになった。本を借りた翌日から記帳できるシステムになっており、それを楽しみに児童は図書室に足を運び、本を借りている。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・廃棄作業を行って書架に余裕ができ、新刊図書や笹間第二小学校から移管した本などを置くスペースを確保することができた。
- ・図書台帳のデータベース化に伴って、「読書おもいで帳」プリンターを導入したことで、借りた本を記帳できるようになり、児童の読書意欲が高まった。

(2) 課題

- ・書籍の登録を業者に依頼している為、新刊図書や寄贈図書が図書室に並ぶまで時間を要する。

1 学校図書館の概要

本校は児童数 49 名の小規模校で、自然豊かな環境の中に位置している。図書委員会の児童が運営する読書活動を定期的に行ったり、PTA や地域の図書ボランティアの読み聞かせ等の活動をしたりしている。本校の図書室は、「読書センター」としての役割は果たされているが、「学習・情報センター」としては十分とは言えない。最近は ICT を用いて調べることが多いため図書室での学習利用が少なくなってきたおり、自分の目的に合った図書資料を探し出すことが年々難しくなっている児童も見られる。また、岩手県の学習定着度状況調査から、「段落構成を考えながら指定された文章を書く」「自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く」の無答率が高く、本校も同様であり、言語能力の育成が十分とは言えない。

2 具体的実践内容

(1) 図書資料を用いた情報収集

- ① 活用する図書資料を早く見つけるために、図書室内に表示をしたり、内容的にまとめて配架したりする等、学習の環境を整える。
ア. 分類番号表示を高いところに設置し、入り口から目的の本を見つけやすいようにする。
イ. 種類によって本を一カ所にまとめて収納し、表示することで、目的の本を探しやすくする。
- ② 課題解決に向けて必要な図書資料を推論させながら自分で選択させ、目次の見方や索引の見方を生かして判断させ、必要な資料を見つけ出させる。

(1)①ア 分類番号表示



(1)①イ 種類によって分類・表示



(2) 新聞教材を用いた情報活用

- ① 「よむ YOMU ワークシート」(読売新聞社)の問題に個人が自力で取り組んだ後、個人の生活経験差が大きいので、内容を理解させるために記事の内容を解説する。
- ② 解説後に、自分の考えを段落構成を考えながら 200 文字以内に記述させて、自分の考えを整理させたり、互いの記述内容を読むことで多様な考えに触れさせ、自分の考えを深めるよさを実感させたりする。

(2)①よむ YOMU ワークシート



(3) 情報選択と学びの深まり

- ① 新聞(「岩手日報ジュニアウイークリー」)を読んで関心のある記事を選択し、それについて自分の考えをまとめて書く活動に取り組ませる。

(3)新聞を活用した情報選択



3 成果と課題

<成果>

- ・与えられた情報をそのまま活用するのではなく、自分で推論・判断して必要な情報を探し出したり、情報から自分の考えを深めたりする学習活動を通して、児童一人ひとりが主体的に学べるようになり、思考力や表現力が高まってきた。

<課題>

- ・情報収集の技術として図書資料を活用するか、ICT を活用するかは、何をねらいとするかによるが、ICT ばかりに頼っていると、推論しながら探し出す力は育ちにくいと考えられる。効果的に活用させるには、情報技術としてどちらが適しているのかを、まず指導者が的確に判断して、情報活用能力を鍛えることが必要である。

1 学校図書館の概要

本校は、学級数16（各学年2，特別支援4）、全校児童284名の学校である。図書室は2階に位置しており、中央に机や椅子が置いてある他、絵本コーナーにはクッション式の椅子が置いてあり、子ども達が自由に読書できるようになっている。蔵書数は約9000冊で、中休み・昼休みは図書委員が貸し出しをしている。週に一度、図書ボランティアの方々が来校し、図書室の装飾や本の修理等を行っている。

2 具体的実践内容

（1）読書目標の設定

年間目標冊数（低学年80冊、中学年50冊、高学年30冊）を設定している。学期末には各学年のベストリーダーを上位10名まで「図書館だより」で紹介し、学年末には目標冊数を達成した児童に多読賞（賞状）を渡している。

（2）学級文庫の設置

年度初めに、学級30冊を児童が選んで教室に設置し、自由に読めるようにしている。

（3）図書委員会の取り組み

6月にミニ図書まつり、11月に図書まつりを図書委員が企画している。

- ・分類ビンゴ（2ビンゴ達成で1枚、全部のマスをうめられたらもう1枚、図書委員が作ったしおりをプレゼントする）
- ・読み聞かせ（朝学習は低学年の教室で、昼休みは図書室で、図書委員が行う）
- ・本の整理チャレンジ（本を5冊整理したらシールを1枚もらえる）
- ・読書クイズ（図書委員が作ったクイズを、児童朝会で全校児童に出したり、図書館前の廊下に掲示したりする）



図書室での読み聞かせ



しおりをプレゼント



5冊整理した人にシール

3 成果と課題

〈成果〉

- ・各学級での呼びかけや、委員会の工夫した活動により、多くの児童が図書室を利用している。
- ・いつでも身近に本が置いてある環境で、すきま時間に本を読む習慣が身についてきている。

〈課題〉

- ・冊数を増やすことに偏りがちな傾向があるので、少し長めの本に挑戦したり、様々なジャンルの本に親しんだり出来るような工夫をしていく必要がある。

1 学校図書館の概要

本校は学級数8（特別支援学級2を含む）、児童数77名の小規模な小学校である。蔵書数は約1万冊。学校司書が隣の衣川中学校との兼務で週2日勤務している。中休み・昼休みは図書委員会が貸出を行う。

5月から11月まで、第1金曜日は「どんぐりの会」というボランティア団体が、読み聞かせをしてくれている。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書とボランティアによる読み聞かせ

毎週金曜日の朝活動の時間を読書の時間としてあり、そのうち読み聞かせは年間7回実施できるよう計画している。毎回、4～6年は交替で実施している。児童はこの活動をととても楽しみにしており、学年に関係なく集中して話を聞いている姿が見られる。



(2) 読書ビンゴ

どうしても読む本が物語に偏るので、多種類の本に触れることを目的に、読書ビンゴに取り組んだ。3×3マスの縦や横、斜めのラインが3本できると、ゴールドカードがもらえ、そのカードを使うと一度に3冊借りられるようになる。普段あまり代本板が入らない5類や4類の書架に代本板がたくさん入り、児童が積極的に読んでいることが分かった。

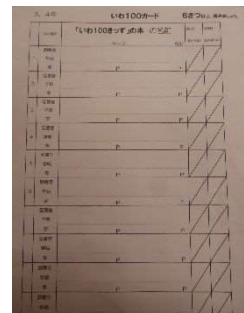


(3) 「いわ100キッズ」への取組

これまでも少しずつ「いわ100キッズ」の本は揃えてきたが、書架の場所が目立たなかったり、児童への周知が足りなかったりしたせいで、あまり意識されていなかった。

そこで今年度は「いわ100キッズ」のコーナーを目立つところに変え、「いわ100キッズ」用の貸出カードも児童の読書ファイルに挟み、普通の本とは別に6冊以上読むように呼びかけた。

本がまだ揃っていない面はあるが、児童の目につくところに置いた効果はあり、例年になく「いわ100キッズ」の本は読まれている。



3 成果と課題

【成果】・上記で紹介したさまざまな取組を含め、学校司書や図書委員会の働きかけで、年間読破目標を達成する児童は、全体の90%を超えている。

・調べ学習の際に、児童が自分に必要な本を探し出すのが上手になった。

【課題】・「いわ100キッズ」の本はまだ揃っていないので、来年度以降も計画的に本を購入し、コーナーの充実を図っていきたい。

1 学校図書館の概要

本校は児童数117名である。各教室には、常時図書が置かれいつでも気軽に本を手にとれるようにしている。また、週末読書を勧めるとともに一人一人の読書のめあてをもたせて本に親しむように努めている。

2 具体的実践内容

(1) 読書指導

ア 読書カードを利用し、年間読破目標の達成状況や自己の読書について振り返る。

(年間読破賞として表彰)

イ 各教室に学級文庫を設け、学期ごとに本の入れ替えをして児童が本と触れ合う機会を増やす。

ウ 月ごとにテーマを設けて企画展を行い、本を紹介する。(読書普及員さん)

(2) 委員会活動

ア 本の貸し出し

イ 図書館整理

ウ 企画展の周知

エ 図書館祭りの実施

(スタンプラリー 低学年への読み聞かせ)

(3) その他

ア 朝読書(毎週水曜日)

イ 市立図書館の貸し出しを活用した調べ学習

ウ 図書ボランティアさんによる読み聞かせ

エ 図書館ネットワークでの広域予約の貸し出し



3 成果と課題

○図書館祭りのスタンプラリーの取り組みでは、目標冊数をクリアして、しおりをもらえるように意欲的に取り組んでいた児童が多かった。

○月ごとの企画展では、今まであまり借りなかった分類の本を借りる機会になっていた。

○図書ボランティアさんによる読み聞かせや、図書館司書の方による本の配置の助言をいただくなど、地域と連携をしながら図書館運営をすることができた。

●学校閉鎖のため、低学年への読み聞かせができなかった。

●年間読破冊数に届かない児童への声掛けをもっと行っていきたい。



1 学校図書館の概要

本校は、児童数 90 名、8 学級（特別支援学級 2 学級を含む）の学校である。図書室は、北校舎の 2 階の静かな環境にある。蔵書冊数は、約 6300 冊である。昼休みの開館（図書委員が貸し出しや図書整理など）の他にも、夏季休業中や冬期休業中にも貸し出しを行っている。

2 具体的実践内容

（1）年間読書目標冊数の設定

学校のまなびフェストの中にある、年間目標冊数（低学年 70 冊、高学年 50 冊）の取組の他にも、個人目標を（年間と学期ごと）設定し、目標達成者には学期ごとに達成賞を渡し、年間の多読賞の表彰も行っている。そして、個人目標の確認と振り返りを学期ごとに行いながら、目標達成を目指して読書ができるように働きかけている。

（2）学級文庫の配置

担任・児童・図書担当で本を選定し、学年に合った本・読んでほしい本（教科の学習に参考となる本、おすすめの本など）を学級文庫として置き、朝読書の時間や給食待ち時間などに読書している。教室内に本があることで、隙間時間にも読書に親しむことができる。

（3）委員会活動

- ① アッチプロジェクト・・・本に出てくる「おばけのアッチ」をマスコットキャラクターにして、本を返した冊数分のシールを、アッチの掲示物（各学年）に貼る取組を年間通して行っている。
- ② 図書委員による企画・・・「かわいいシール」や「2 冊券」のプレゼントなどの企画や、児童朝会で「図書室の利用の仕方」や「読書クイズ」などの発表を行っている。また、図書委員による読み聞かせや、おすすめの本の紹介（図書委員・希望者・先生）にも取り組んでいる。
- ③ 図書まつり・・・年 1 回の「図書まつり」では、図書ビンゴカードに取り組み、しおりや塗り絵などと引き換えできる「ガチャの日」を設定して、普段よりもいろいろな本を読む児童が増えた。

（4）読み聞かせボランティア「ささ舟」

各学年、年 2 回程度読み聞かせの会を行っている。それぞれの学年に合った本を紹介していただいている。

（5）親子読書の取組

「親子読書カード」を作成し、夏休みに家族で読書に取り組むように働きかけを行っている。



3 成果と課題

（1）成果

個人の読書目標を学期ごとに評価し、次の学期始めにまた目標の確認を行うことで、年間の読書目標を意識しながら読書活動に取り組むことができている。年 1 回の「図書まつり」は、図書室に本を借りに来る児童がぐんと増え、子どもたちも楽しみにしているので続けていきたい。

（2）課題

読書が苦手な子や読書冊数が少ない子も、本に親しむことができるように工夫していきたい。また、図書室や本の整備にもっと力を入れるために、ボランティア等の活用も考えていきたい。

「進んで読書に親しむ子どもを育てるために」

陸前高田地区S L A 陸前高田市立横田小学校

1 学校図書館の概要

本校は、児童数39名、5学級（うち複式学級2、特別支援学級1）からなる。学校図書館は2階にあり、同じ階の4・5・6年生は利用がしやすい。また、1階教室の1・2・3年生は、同階のホールの本棚に対象本が蔵書されている。そのため、本が利用しやすい環境にある。図書委員会が中心となり、全校児童の読書意欲向上のための活動を行っている。

また、月1度来校する読み聞かせ団体のペパンさん、月2度来校し、図書の管理や配架、読み聞かせをする図書指導員さんは、子どもたちが読書活動に親しめるように大きな役割を果たしている。



2 具体的実践内容

(1) 朝読書

月曜日から金曜日、8時10分から8時20分の間、朝読書に取り組んでいる。

全校児童が、本に浸り、本と向き合う貴重な時間となっている。

(2) 図書委員会による取り組み

- ・年間の読書冊数目標を設定し、取り組みへの呼びかけを行い、読書クリア賞・多読賞を表彰している。
- ・読み聞かせに取り組み、本の良さを広め、読書への向上心を高めた。
- ・11月の図書祭りでは、児童集会「図書かるた大会」を企画した。じっくりと本を読んでほしいと考え、図書委員おすすめ本を学年毎に用意し、読んでからの集会への参加を呼びかけた。本の内容を読み札にした図書かるたは大好評であった。また、取れなかった子への配慮として、図書かるたの本を中心とした本クイズを企画し、学校図書館への来校者を増やした。

(3) 読み聞かせ活動

読み聞かせ団体のペパンさんは、季節を感じさせる本やストーリーテリングなど様々な工夫をして読み聞かせをして下さった。ストーリーテリング後に本を見せることは、子どもたちの想像力を膨らませる楽しい活動となった。図書指導員さんは、学校や市立図書館の本の読み聞かせをし、様々な本に親しませ、読書活動へ意欲付けをして下さった。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・読み聞かせ活動によって、本の内容にじっくり浸ったり、心の栄養にもなったりするなど本の良さを感じることができた。本を借りて読んでみたいという子どもたちの気持ちが高まった。
- ・図書委員会の取り組みでは、読書冊数をクリアする児童がほぼ全員となり、読書活動に意欲的であった。図書祭りの「図書かるた」「本クイズ」の企画では、本をじっくりと繰り返し読む活動へと繋がった。
- ・児童が並行読書やビブリオバトルの活動を行うことで、本のおもしろさを感じ、進んで読書に取り組むきっかけとなった。
- ・教師が選書をすることで、良書への出会いや本のジャンルを広げることに繋がった。

(2) 課題

- ・読む本の種類による偏りがあるので、本の種類のめあてを立てる工夫をしていきたい。
- ・じっくりと本を読んでいけるよう、感想を書く活動やビブリオバトルなどの活動などを継続し、家での読書活動を啓蒙していきたい。

「児童が本に親しむための読書指導を目指して」

大船渡地区SLA 大船渡市立大船渡小学校

1 学校図書館の概要

本校は、児童数149名、8学級（特別支援学級2学級を含む）の学校である。図書室は、校舎3階中央に設置されている。図書室中央には、新刊図書のコーナーや、おすすめ本コーナーが設置されており、本を選びやすい環境になっている。

本校には、市から図書ボランティアが派遣されており、蔵書管理や廃棄の補助、掲示装飾等の補助を行っている。



2 具体的実践内容

(1) 読書活動の充実

ア 各学級での読書活動

必読書（各学年の教科書に紹介されている本や読書感想文コンクールの課題図書）や並行読書により、読書の幅を広げられるよう取り組んでいる。

イ 委員会活動

積極的な図書室の利用を働きかけるため、「読書の実」（図書室利用で学級の木にシールの花を貼れる）や「集めてペッタン」（目標冊数達成で特典を得られる）に取り組んでいる。



(2) 「特定非営利活動法人おはなしころりん」との連携

ア 移動こども図書館事業

月1回の移動こども図書館を利用し、おはなしころりんが選書する図書を各学級に配架することを通して、発達段階に応じた様々な本に触れることができるようにしている。

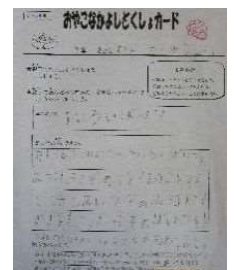
イ 読み聞かせ

児童が本と親しむ時間を確保するために、学年毎に月1回程度、金曜日の朝読書の時間に、おはなしころりんが選書し、持参した図書を教室で読み聞かせしていただいている。



(3) 家庭との連携

読書を通して親子で交流する機会をもつために、長期休みに「親子なかよし読書」に取り組んでいる。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・必読書の取り組みやおはなしころりんとの連携により、本に親しむ機会が増え、児童の読書の幅が広がった。
- ・図書委員会の取り組みにより、積極的に図書室を利用する児童が増えた。
- ・「親子なかよし読書」を通して、親子のコミュニケーションをとることができた。

(2) 課題

- ・読書に興味をもつ児童とそうでない児童の差が大きい。まずは本に触れる機会を増やし、より本に親しむことができるような工夫を続けていく。
- ・児童の「もっと知りたい」という思いにさらに応えられるよう、市立図書館とも連携を図っていく。

1 学校図書館の概要

本校は釜石市中心部に位置しており、学級数は8（特別支援学級2含む）、児童数は86名である。図書室は4階にあり、蔵書冊数は約6000冊である。また、2階の第二会議室の一角には、地域や全国から支援でいただいた寄贈図書等を保管し、貸し出しするためのスペース「わくわくルーム」があり、約2000冊を配架している。寄贈図書の受付やコーナーの装飾などは保護者や地域の方々による図書ボランティア「おひさまの会」が行っている。

2 具体的実践内容

（1） 主な委員会活動

- ・おすすめする本の紹介ポスターの作成を行う。
- ・各教室にある、団体貸し出しの本（月1回）の回収と配架。
- ・多読目標達成を呼びかけ、目標達成者を表彰する。
- ・1年生対象に「図書館へ行こうツアー」を実施し、図書室でのきまりや本の借り方について教える。1年生向けに図書委員会が読み聞かせを行い、本のおもしろさを知ることができるようにしている。
- ・今年度から図書クイズというコーナーを新設（1月に行う予定）した。本に関するクイズを放送で流し、本への興味関心を高めることができるようにする。

（2） 図書祭り期間中の活動

11月には、図書委員会が企画・運営する「図書祭り」期間を設け、創意工夫を生かした活動を実施。

- ・読み聞かせ…昼休みに図書委員会による本の読み聞かせを行い、様々な本に触れさせる機会を設けている。
- ・図書ビンゴ…9つの図書分類番号の数字が書かれたビンゴに挑戦させることで、様々なジャンルの本に出会わせる。基準を満たした児童には図書委員会が手作りしたしおりをプレゼントして意欲を高めた。
- ・釜小おすすめの本ベスト10総選挙…全校1人1冊おすすめする本を紹介してもらい、ベスト10のランキングを発表した。

（3） 読み聞かせ

図書ボランティアによる読み聞かせを行っている。

（毎週金曜日の朝活動時）

（4） 親子読書の取組

年2回（夏休み・冬休み）に、親子で読書に親しむ時間を設定して取り組んでいる。（7日間）

3 成果と課題

- 図書祭りでは、図書ビンゴの景品で手作りしおりのプレゼントを行うことで、景品獲得を目指して図書室に足を運ぶ機会が増え、本に親しむことができた。
- 毎週金曜日の朝に行っていたボランティアの読み聞かせにより、様々な本に出会うことができ、読書への興味関心を高めることができた。
- ▲図書祭り期間は、図書館を利用する人数が多くなるが、全体的に冊数の目標達成率が伸びていない学年があるので、読書習慣を身に付けさせていき、読書に意欲的に取り組んでいくことができるように、委員会の活動や図書祭りの内容を今後も工夫していきたい。



1 学校図書館の概要

本校の図書館教育の重点目標は、「図書室を整備し、児童が楽しく本に親しむ環境づくりをする」「読書の習慣化を図り、『本好きの子』を育成する」「各教科等の様々な場面で図書室を活用するための環境を整える」である。児童の読書意欲向上を図るため、図書委員会による活動、学校図書支援員や学校図書ボランティアによる環境整備や読み聞かせを中心として、下記の実践を行っている。

2 具体的実践内容

(1) 図書委員会の活動

ア 常時活動

- ・ 1日3回（朝、中休み、昼休み）の貸し出しと図書の整理
 - ・ 昼の放送による「本のクイズ」
- 「本のクイズ」を通して、様々な本や新聞の記事を紹介している。

イ 「校内読書週間」の企画・運営

読書推進のために、読書週間の企画、運営を行っている。

・ スタンプラリー

今年度は「スタンプラリー」を実施した。各学年の目標冊数を達成した児童への景品として「2冊借りられる券」「カウンター体験券」を用意し、読書への意欲付けを行った。

・ 読み聞かせ

図書委員が選書し、朝活動の時間を活用して各学級へ読み聞かせを行った。



(2) 家庭読書の日

読書時間を確保するため、毎月水曜日を「家庭読書の日」と設定している。低学年30分、高学年45分を目安に、全校で家庭読書に取り組んでいる。

(3) 必読図書の配架

様々なジャンルの本に親しめるように、各学年に必読図書を30冊配架した。

(4) 図書支援員、図書ボランティアの活動

ア 読み聞かせ

・ 図書支援員による読み聞かせ

各学年に応じた本や季節の絵本など、幅広く読書を楽しむために読み聞かせを行っている。

・ 図書ボランティアによる「お話会」

各学期に1回、全校を対象とした「お話会」を実施している。会場の装飾をしたり、大型絵本やテーマに合わせた衣装を用意したりと、本の世界に浸れるように工夫している。

イ 環境整備

・ 図書室の装飾

図書室へ通うのが楽しくなるように、季節ごとに、図書室の装飾を行っている。

・ 図書の修繕

児童が気持ちよく本を借りられるように、破損した図書の修繕を行っている。



(5) 多読賞の表彰

読書への意欲付けを図るため、年度末に、各学年で一番読書をした児童を表彰している。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・ 家庭読書の日を設定することで確実な読書時間を確保し、普段、家では読書をしない子どもも、読書をする意識が育ってきている。
- ・ 図書委員や図書支援員、図書ボランティアの活動により、図書室の利用者数が増えてきている。
- ・ 必読図書の配架により、学習に関連した本、同じ作者やシリーズの本を選んで読む姿が見られるようになるなど、読書の幅が少しずつ広がってきている。

(2) 課題

- ・ 学年に応じた本を選んだり、様々なジャンルの本を読んだりすることには、課題が多い。幅広く読書に親しみ、読書の質の向上を図る取組を考えていきたい。
- ・ 子ども達が日常生活の中で、主体的、継続的に読書を行う取組や工夫を考えていく必要がある。

1 学校図書館の概要

本校は全校児童9名の極小規模校である。図書コーナーが1階にあり、その他各教室付近に国語に関連した図書や、児童が紹介したい図書のコーナーを設けている。蔵書数は2487冊であり、規模としては小さいが新刊図書の購入等を定期的に行い、児童や時勢にあったもの、または不足しているNDC番号の蔵書を増やし、学校図書の利用を推進している。

2 具体的活動内容

(1) 朝読書の実施

主に毎週月曜日に朝読書の時間を設定し読書活動を行っている。毎月第3火曜日に担任入れ替えの読み聞かせを行い、加えて2か月に一度、主に第一月曜日に職員による読み聞かせ活動を行っている。

(2) 親子読書の実施

夏休み・冬休みに家庭での読書推進を目的として行っている。親子で同じ本を読み、カードに記入したものを図書コーナーに掲示している。

(3) 保護者による読み聞かせの実施

2ヶ月に一度、各家庭の保護者の方に昼休みに来校していただき読み聞かせ活動を行っている。

(4) 図書委員会による活動

図書委員会による活動は以下のとおりである。

- ・図書コーナーの整理・整頓、利用しやすい環境づくり。
- ・季節の図書や新刊図書をみんなに読んでもらうためのポップ、帯づくり。
- ・読書まつりへの取組として、読み聞かせや図書クイズの企画。

(5) 町立図書館との連携

町立図書館と連携して行っている活動は以下のとおりである。

- ・町立図書館が配布している読書通帳を利用し、読書の記録活動や冊数に応じた景品の交換など。
- ・読書マラソンへの取組。
- ・移動図書館「かもしか号」による図書の貸し出し。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・読書通帳への記載を積極的に促したことで、通帳が2・3冊目と更新する児童が3分の1以上おり、達成感を感じながら進んで読書することができる取組であったと感じる。ほかにも読書まつりに向けて活動する中で、読んだことがない本に触れ、児童が楽しみながら読書意欲を高めることができた。

(2) 課題

- ・進んで読書は行っているが、読む本の種類に偏りがある様子や、同じ本ばかり読む児童が多く見られる。今後は幅広く蔵書を増やしていくとともに、あまり読まれていない種類の本や、分類のものに触れる機会を授業内外ともに増やし、児童の読書意欲を高めていきたい。

「本が好きな子の育成を目指して」

久慈地区 SLA 洋野町立中野小学校

1 学校の概要

本校は、全校児童数 72 名の小規模校である。蔵書数は、約 7 0 0 0 冊で、図書室は、1 階の校舎中央にあり利用しやすい環境にある。週に 1 回ほど地域コーディネーターや図書ボランティアの方々が来校し、図書の修理や季節の装飾などの環境整備活動をしてくださり、季節を感じられる明るい図書室になっている。

2 具体的実践内容

(1)朝読書、読み聞かせの実施

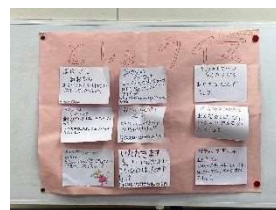
毎週月曜日に、1～3 年生は図書ボランティア「つぶつぶころりん」の方々による読み聞かせ、4～6 年生は自分の読みたい本を読む朝読書の時間を設定している。1～3 年生は読み聞かせによって本の楽しさを感じ、4～6 年生はじっくりと読書に親しみ、読書の幅を広げたりする時間として効果的に活用できている。

(2)年間読書冊数の目標の設定

学年ごとに目標冊数（低学年 1 0 0 冊、中学年 5 0 冊、高学年 3 0 冊）を設定し、目標達成を目指すように呼びかけている。個人の達成状況を読書リボンとして図書室に掲示し、児童の意欲につなげている。

(3)図書委員会の活動

本の貸し出しの世話や図書の整理のほかに、11 月に図書祭りを行っている。図書ビンゴや先生方のおすすめの本紹介、図書クイズ、読書郵便など様々な内容を企画し、約 1 か月間取り組んだ。どの企画も、全校生が積極的に取り組むことができ、図書祭り期間中は、どの学年も普段より読書量が増えた。



(4)図書ボランティアの活動

図書ボランティア「つぶつぶころりん」が、毎週月曜日に読み聞かせ、水曜日に図書室の環境整備や本の修繕などを行っている。また、図書祭り期間中に、全校児童に向けて、大型絵本や紙芝居を使って読み聞かせや図書ボランティアのお仕事体験を行っている。

3 成果と課題

(1)成果

朝読書や読み聞かせ、図書祭りなどを通して、本に親しみ、楽しく読書に取り組んでいる児童が多い。教室にも本が置いてあるので、いつでもすぐに本が読める環境にあることも本が好きな子を育てる上で有効である。

(2)課題

図書祭り期間だけでなく、日ごろから図書室を進んで利用する児童を増やしたい。誰かに言われるのではなく、自分から様々なジャンルの本を手に取り、読書に親しめるように取り組んでいきたい。

「読書を楽しみ、親しむ子どもの育成を目指して」

二戸地区S L A 九戸村立戸田小学校

1 学校図書館の概要

本校は、児童数35名の小規模校である。学校図書館は2階にあり、低学年教室に隣接しており、どの学級からも利用しやすい環境にある。蔵書数はおおよそ6000冊である。開館は主に昼休みで、図書委員会が本の貸し出しや図書の整理等を行っている。年2回児童とともに本の選定を行うなど、子どもたちにより本へ興味をもってもらうための活動や環境づくりに努めている。

2 具体的実践内容

(1) 読書に親しむ環境づくり

① 朝読書の実施

毎週月曜日、15分間の朝読書を位置づけ、全校で読書活動を行っている。また、学期に1回、学年PTAと村の読み聞かせグループ「やまびこ」が各学級への朝の読み聞かせを行い、読書の楽しさを伝えている。



② 長期休業での読書の推進

長期休業中に読んだ本の中から、おすすめの本を選び、「心に残った場面の絵や言葉」等を書いて、全校児童に紹介している。休業明けには、図書室前におすすめの本とカードを展示し、様々な種類の本に触れる機会となっている。

③ 読書普及員による読書ビンゴカード

村の読書普及員が学校図書館の整備等を行っている。また、学年ごとの「この本読んでみよう」ビンゴカードを作成している。前期、後期の2種類のカードは、国語の学習と関連して読み広げたり調べたりすることに役立ち、児童の読書意欲を掻き立てるものとなっている。

(2) 読書を楽しむ環境づくり

① ぐんぐん読書タイム

週3回あるぐんぐんタイムでは、雨の日や体力向上期間を除き、全校で読書を行っている。読書をする場所は、体育館や図書室などの全校児童が入りやすく寛げる場所としている。その中から、児童が自由に読む場所をし、他の学年の児童と一緒に読書したり、読んでいる本の話で語り合ったりと、学級学年の垣根を超えた交流の機会となっている。

② 図書委員会の取り組み

昼休みには、本の貸し出しの他、ブックスタンドに本を飾っている。季節に合った本や、その時話題の出来事に関する本、図書委員のおすすめの本など、各コーナーに展示している。6月と11月は、読書強化月間となっている。子どもたちに、楽しく読書をしてもらおうと、図書委員会が中心となって取り組みを考えている。

3 成果と課題

児童の様子を見ていると、読書をするのは好きだが、運動をすることも好きな児童が多い。そのため、読書時間の確保をしていく必要がある。選ぶ本の種類が偏っている児童には、ビンゴカードやおすすめの本の紹介の取り組みは有効な活動である。継続して行われている読み聞かせ活動は、高学年の児童にとって、自分たちが低学年に行う読み聞かせのお手本となっている。様々な活動のつながりによって、これからも読書を楽しみ、親しむ子どもの育成に努めていきたい。

「 図書館を通し読書に親しむ環境作りについて 」

盛岡地区SLA 盛岡市立仙北中学校

1 学校図書館の概要

本校は、学級数22（1年6、2・3年各7、特別支援2）生徒数670名で、図書館の蔵書は、18,119冊である。図書達成率は121%である。図書委員会が日常業務として、図書当番や蔵書整理などを行っている。図書館は昼休みに開館している。利用者は一日平均30人前後である。

本校では学校図書館は、学校内の学習と文化活動の重要な場として位置づけられている。蔵書数は充実しており、図書達成率121%ということから、生徒一人あたりの蔵書数が平均を上回る状態である。これにより、生徒たちは多様なジャンルやテーマの本にアクセスし、自分の興味や好みに合った読書体験を豊かにすることができる環境にあるといえる。生徒たちの学年や特性に合わせた読書プログラムや情報リテラシー教育が提供できるように努めている。

2 具体的実践内容

本校では、学校図書館は、読書習慣の促進や情報リテラシーの向上、さらには学習意欲の向上など、多くの面で生徒たちの成長をサポートする場であると考えている。図書館の資源やプログラムを有効に活用することで、生徒たちの学びと発展を継続的に支援していくことができると捉えている。そのため、次のようなことを行っている。

（1）読書に関する企画の実施：学校図書館では定期的に読書に関する企画を実施し、生徒たちの読書意欲を高める機会を設けている。常設としては、季節ごとのテーマに基づいた装飾を施した読書コーナーや、委員会生徒によるおすすめの本のコーナーを設置している。お正月には、本の福袋などの企画を通し、生徒たちに様々なジャンルの本に触れる機会を提供している。

（2）配架の工夫：空間を十分に取り、本を詰め込みすぎず取り出しやすいようにしている。空間を十分に取り、本を手前に揃えて並べることで、本がどこにあるか分かりやすく、使いやすくなるように工夫している。空いたところに、話題の本を面出しして興味を持ってもらえるようにしている。

（3）掲示の工夫：掲示も必要な物だけにして、落ち着いた空間をめざしている。必要な物だけを掲示している。

（4）POPの活用：POPを使用することで、生徒に新しい本やリソースを紹介し、興味を引き、学習機会を提供するようにしている。特に新刊や特集資料などがある場合、これらを強調することで読書の重要性を強調し、生徒たちに読書への興味を喚起させるのに有効であると考えている。資料の普及、学習支援、読書文化の育成、コミュニケーション強化など、さまざまな重要な目的を達成する手段として役立つといえる。

3 成果と課題

○成果

図書館利用の実態を捉えるために図書委員会のアンケートを実施した。図書館の環境について項目では、よく整理されている、内容ごとに分かりやすく配架されていて新しい本に出合えるなど毎日の活動が評価されている意見が多数あった。また、委員会の取り組みも楽しみにしているという意見も多数あり、委員会の生徒も図書館の活動にやりがいを感じている。

◇課題

同じくアンケートの中に、椅子をもっと増やしてほしい、などの意見があったが、一方、狭くて人とぶつかってしまうなどの意見もあり、図書館全体のレイアウトの改善が必要といえる。また、企画ものを行っていることを知らなかったという声もあり、実施する際の広報活動をもっと活発に行うようにしていきたい。

「読書活動の充実のために」

岩手地区 S L A 岩手町立川口中学校

1 学校図書館の概要

本校は、学級数 5（各学年 1・特別支援 2）、全校生徒 72 名の学校である。図書室は校舎東側 3 階の奥にあり、続いて 1、2 年教室が並んでいる。

図書は 2014 年にバーコード管理されており、貸出・返却活動は昼休みに学習委員会が担っている。



2 具体的実践内容

（1）朝読書

毎朝 8：20～8：30 までの 10 分間が「朝読書」として設定されている。図書室から借りた本や持参した本を選び、教室で静かに取り組んでいる。

（2）委員会活動

長期休業後の読書推進のため、全校生徒に読書アンケートを実施し、希望に沿った図書を配架する。

（3）教科との関連

昨年度の「本の帯作り」を受け、今年度は、「ポップ作り」を全校で取り組んだ。自分のおすすめの本をポップとともに、図書室入り口に展示した。1 週間ごとに入れ替え、1 ヶ月ほどかけて紹介した。



また、教科関連図書を試し読みする時間を設け、実際に本を手にする機会を作った。

（4）図書支援員、町の移動図書館との連携

町の図書支援員が月に 1～2 回来校し、蔵書点検や環境整備を行っている。また、月に 1 回、町の移動図書館「おおぞら号」の利用を全校に呼び掛けている。限られた時間内ではあるが情報共有をし、季節ごとの掲示や教科に関連した図書の展示、生徒の実態に合わせた図書の選定など、生徒が本を手に取りやすいようきめ細かく対応していただいている。



3 成果と課題

（1）成果

上記 2 の実践を行うことで読書への興味を広げるきっかけを作った。

（2）課題

図書室だけでなく学級文庫にも古い図書が多いため、計画的に整理する時間が必要である。また、生徒が進んで利用したくなるような図書館環境の整備に努めたい。

「読書活動の充実を目指して」(読書指導領域)

八幡平地区SLA 八幡平市立西根第一中学校

1 学校図書館の概要

本校は、全校生徒90名で、生徒の教室は2階と3階にあり、図書室は3階の奥に位置している。図書の貸出は昼休みに学習委員が行い、週に1度図書館司書が図書室の整備、新刊図書の選定や受付、新刊図書案内の作成・掲示等をしてきている。

2 具体的実践内容

・ 朝読書の実施

年間10冊以上の本を読むことを目標に朝8:20~8:30の10分間、朝読書を実施している。図書室に入った新刊は、図書館担当教師がタブレットで表紙を撮影して全校生徒のタブレットに送り、読みたい本を探しに図書室に来るきっかけ作りをしている。



・ 図書館司書との連携

年間37回、図書館司書が来校し、図書室の整備をしてきている。

お勧めの本や作家のコーナーの設置、ポップの作成、新刊を紹介する掲示物の作成など生徒の興味を喚起する工夫を凝らしていただいている。図書室前廊下の掲示板は生徒の目に触れにくいので、時期によって全校生徒が通る昇降口前にも本を紹介する掲示板を設置したり、新刊紹介の図書館便りを発行したりして、生徒に本を勧めてくださっている。

・ 専門委員会との連携

図書の貸出や全校テストの実施などを行う学習委員会と連携して読書活動を推進している。図書関係のみを行う委員会ではないので活動内容は限られているが、新たにブックトークを企画するなど、読書に関する活動の活性化に取り組もうとしている。

3 成果と課題

〔成果〕 司書の尽力により、多様な分野の新刊の購入と魅力的な紹介ができています。

〔課題〕 朝読書の時間以外は本を読まない生徒も少なくないので、読書の促進を図りたい。



「国語科と図書委員会を中心とした図書室利用の読書推進活動」

紫波地区 SLA 矢巾町立矢巾中学校

1 学校図書室の概要

基本データ 生徒数 328 人 教職員数 33 名 蔵書数 10,830 冊 年間貸出冊数 1,604 冊

矢巾中学校の図書室は扉がないオープンスペースで、生徒達は朝や昼休み、そして部活動の待ち時間などに図書室を利用している。図書委員会がいる開館時間は昼休みで、図書事務補助員（隔週勤務）と連携しながら本の貸し出しや図書の整理などを行っている。専門委員会活動は月1度だが、読書推進活動の充実を図るために様々なアイディアを出して活動を行っている。

2 取組・活動の概要

図書委員会担当教諭（3年国語科）と図書事務補助員の指導の下、図書委員会が様々な読書活動の推進のための取組を行った。

3 具体的実践内容

（1）読書目標の設定（図書委員会活動）

図書委員会では、年間貸出目標冊数 3,000 冊を設定している。

（2）全校朝読書（全校活動）

毎朝 8 時 25 分～35 分の 10 分間を全校朝読書の時間としている。読書習慣が身につくだけでなく、集中力が身についたり、姿勢の切り替えができるようになったりと、生活習慣の向上にも繋がっている。

（3）図書館への招待状（図書委員会と図書事務補助員との連携）

図書室へ 1 学期間一度も足を運んだことがない人を対象に、「図書館への招待状」を配布した。中面には、図書事務補助員が図書室をよく利用する生徒から聞き取ったお勧めポイントを記載した。

（4）貸出代行サービスの実施（図書委員会と図書事務補助員との連携）

読みたいジャンルに○をつけ、図書委員に利用申込用紙を提出し、図書室から借りてくるサービスを行った。図書委員は図書事務補助員と相談しながら貸し出す本を決めていた。

（5）国語科と連携した関連図書による読書活動への接続（図書委員会との連携）

国語(3年、学びて時に之を習ふー「論語」から・俳句の可能性)の学習内容を終えて、「論語の言葉を引用してあなたの悩みに答えます」と俳句作成の表現活動を行った。生徒が書いた作品をエントランスホールに掲示した。図書室にある論語や俳句の本を図書委員が選択し、関連読書として紹介した。



【図書館への招待状】



【国語の授業と連携した読書活動への接続】

〈成果〉

- ・図書委員会担当教諭と図書事務補助員の指導の下、図書委員会と連携して読書活動の推進のための取組を行うことができた。
- ・関連読書として紹介した図書室の本との出会いが、生徒の知的好奇心を刺激するきっかけとなった。

〈課題〉

- ・図書委員会がアイディアを出して活動している時は図書室の貸出率が上がるが、一時的な増加に過ぎない。主体的に読書をしようとする生徒の育成を目指し、読書の質を高め、幅を広げるさらなる手立てが必要である。

1 学校図書館の概要

本校は、全校生徒 291 名の学校である。図書館は 2 階にあり、蔵書数は 10,452 冊である。資料はすべてバーコードによる蔵書管理システムで管理されている。また、各クラスの学級文庫に蔵書を 15 冊程度貸し出し、各教室でも図書館の本に触れることができるようになっている。



2 具体的実践内容

(1) オープンスペースとしての運用

本校の図書館は令和 3 年度より、オープンスペースとして運用されている。3 年目となる本年度は図書館が自由に使える場所であることが生徒にも定着してきており、生徒が気軽に訪れることのできる、活気のある図書館となっている。昼休みには本を借りる生徒のほか、友人とともに本を閲覧する生徒や学習に励む生徒の姿が見られる。

(2) 読書おもいで帳

花巻市立図書館で導入されている読書記録通帳システム「読書おもいで帳」を、令和 4 年度に本校並びに学区内の桜台小学校に導入した。これにより、小中 9 年間の読書記録をまとめられるようになった。このシステムは生徒にも好評であり、通帳にたくさん記録されるのを楽しみにしている生徒や、読んだ本を友人と紹介し合う生徒の姿が見られる。



(3) 図書ボランティア

本校では平成 23 年度より図書ボランティアが活動している。活動内容は主に図書館整備と朝の読み聞かせである。図書館整備では館内の装飾や来館を促すための図書館イベント（おはなし会や工作教室等）を実施している。朝の読み聞かせでは週替わりで各学年の朝読書の時間に絵本等の読み聞かせを行っている。

(4) 学校図書館司書

本年度から学校図書館司書 1 名が配属され、図書館業務全般を専任で担当している。司書の配置により、生徒への本のおすすめや貸出予約の実施、購入図書のリクエスト対応、日常的な館内整備等、きめ細かい対応ができるようになった。その結果、本年度 4 月～12 月の貸出冊数が前年度 4 月～3 月の約 2 倍となり、以前より図書館利用が多くなった。

3 成果と課題

(1) 成果

学校図書館司書や図書ボランティア、図書委員会等の継続的な活動により、図書館が校内の居場所の一つとして機能し、読書に親しむ環境が整っている。

(2) 課題

図書館利用者の増加が見られるものの、図書館を全く利用しない生徒もいる。利用者の裾野を広げていくことが課題である。

「読書活動を通して、豊かな学びと喜びを」

遠野地区S L A 遠野市立遠野東中学校

1 学校図書館の概要

本校は、世界的にも有名な「遠野物語」でも紹介されている六角牛山を仰ぐ立地に位置する。全校134名の学校である。遠野の豊かな自然が活かされたグッドデザイン賞に輝く木造校舎であり、3中学校が統合し、11年目を迎えた。地区は、青笹・上郷・土淵の3地区であり、学区の小学校では、子ども語り部やしし踊りなど表現活動に熱心に取り組んでいる。中学生になっても培った力を活かし多くのことに意欲的に取り組んでいる。図書室は1階の全校生徒が気軽に足を運びやすい場所にあり、利用者も多い。図書委員会の生徒が昼休みに当番制で貸し出しを行っている。

2 具体的実践内容

今年度は、部活動に所属していない生徒たちの手助けもあり、黒板には季節のイラストを描いてもらい「テーマ展示」に「季節に合わせたディスプレイ」「新刊図書の紹介コーナー」など、生徒の関心を引くように環境を整えてきた。本の帯などを図書室前に掲示し、図書室に足を運び、本を手に取りやすいように工夫してきた。図書委員会も多くの本との出会いをしてほしいと呼びかけたりポスターを制作したり活動をしている。



☆読書活動の推進のために、図書委員がお勧めの本を学級文庫として月に一回入れ替えたこと。

☆朝読書の時間には、小説を中心に全校生徒が読書に没頭する時間としたこと。

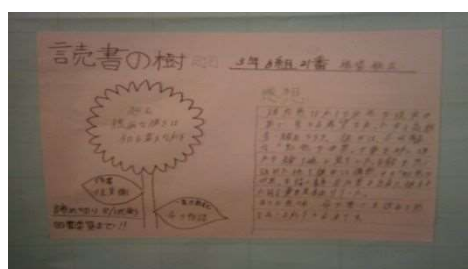
☆週に一度「よむYOMUワークシート」を活用し考えや意見を書く活動に取り組んでいること。

☆毎月11日前後は、復興教育の一環として「いきる かかわる そなえる」を全校で朝読書の時間に必ず読んでいること。

☆夏休みには、図書委員会企画の「読書の樹」という本の紹介も行っていること。

☆各自、年間10冊以上を読むことを目標とし(学校のまなびフェスト)各学年や国語科などの呼びかけもあり、各学年に年間20冊以上読む生徒も増えてきたこと。

☆市の図書館から300冊以上の貸し出し本や「やまどり号(移動図書号)」を利用する生徒も増えてきており、多くのジャンルの本を手にするようになったこと。



3 成果と課題

〈成果〉

○読書教育担当者と図書委員会と連携し活動を展開したことが、遠野東中学校の図書館教育の推進に繋がったこと

○本を片手に、読んでいる本について語り合う生徒が増えたこと。

○「よむYOMUワークシート」に取り組み、短時間であっても読むことと書くことに発展した取り組みができたこと。

〈課題〉

・本校は書架の配列を移動することが出来ないため、環境整備に工夫を要すること。環境を整えながら、更なる図書室利用の促進を図っていききたい。

・新刊図書も数回に渡って購入し、生徒の読みたい本や教師の読ませたい本の購入を計画的に行っていくこと。



1 学校図書館の概要

本校は、生徒数 388 名、14 学級（うち特別支援学級 2）の学校で、3 階建ての校舎である。図書室は校舎 3 階の 1 年生が生活している階にある。特別教室があるわけでもなく、どこかに行くついでに寄ったり通ったりするような場所ではないため、積極的に利用しようと思わないと出向かない場所である。

2 具体的実践内容

（１）蔵書の充実

いろいろな教員と連携し、小説等だけでなく、授業で活用できそうな本も購入することができた。

（２）国語科と連携した図書館使用の仕方のオリエンテーション

新入生を対象に、4 月はじめの国語の授業時間を利用して、図書室のオリエンテーションを行った。最新の本や朝読書におすすめの本の場所などを確認し、実際に一人一冊ないし二冊を貸し出した。

（３）図書委員会の活動

各学級 2 名の生徒で構成され、月一回の委員会のほか、図書を貸し出す日常活動や企画した活動に取り組んでいる。

① 本を借りようキャンペーン

キャンペーン期間内に本を借りた生徒を対象に、図書委員手作りのしおりをプレゼントした。

② クラス対抗本借り

各学年内での対決方式で、期間内に最も多くの冊数を借りた学級に賞状を授与した。

③ 図書クイズ

図書室に関係のあることをクイズ形式にしてタブレットで配信し、答えてもらう方式を取った。答えを図書室に掲示することで、図書室に足を運ぶ生徒を増やすことを目的として行った。

（４）図書ボランティアによる読み聞かせ

朝読書の時間に図書ボランティア（今回は 3 名）に来校していただき、1 年生を対象として「竹取物語」の読み聞かせを行った。ちょうど国語で習う話ということで、竹取物語の授業に入る直前に設定して実施した。

3 成果と課題

- ・委員会を中心として読書への関心が高まる取り組みを企画し、実施できた。蔵書もバランスよく購入することで充実させることができた。
- ・場所の難しさもあり来室生徒が固定化しているのので、2 年生・3 年生のフロアに出張図書のようなものを設置し、読書活動の充実を図りたい。

「図書館利用人数を増やすための取り組み」

胆江地区 S L A 奥州市立衣川中学校

1 学校図書館の概要

本校は生徒数 75 名、学級数は 4（特別支援学級 1 を含む）小規模校である。校舎の 3 階奥に図書館が位置している。そのため、教室からは遠く行こうと思わなければ足が向かない場所にある。現在の所蔵数は約 6200 冊である。昼休みと長期休業中の貸し出しを行いメディア専門委員が当番制で貸し出し・返却作業を行っている。学校司書が 1 名配置されている。

2 具体的実践内容

☆年間目標冊数（20 冊）設定し、図書館利用を促している。

設定してから 4 年目。

達成率 R3 年度：52.1%

R4 年度：61.1%

R5 年度（12 月時点）：69.3%と年々上がってきている。

【図書館利用を増やすための工夫】

- ① 4 月に図書館利用のオリエンテーションを全学級で行い、利用マナーや目標冊数についての意識を高める。
- ② 専門委員会による昼の放送で貸し出し呼びかけや返却期限についての連絡を多くする。図書館が何をしているかを知らせ、利用を呼びかける。
- ③ 図書便りや校内掲示物による『お知らせ』をする。
- ④ 教務・学級担任・国語担当教師と学校司書が図書館運営についての相互理解や協力体制を深めること。
- ⑤ 長期休業期間前の 3 冊貸し出しの全員利用の徹底。
- ⑥ 秋・冬（全国・岩手）の読書週間に合わせた校内読書週間の取り組み。（委員会企画として先生方のおすすめの本紹介、図書館企画として岩手の作家さん紹介、3 冊貸し出し等）



「奥州市の読書推進」企画の POP カード特集の本を集め、展示して貸し出しを行う。



3 成果と課題

成果として、図書館利用人数を増やし、年間目標達成率を高めることができた点である。課題としてはスクールバス利用の生徒がほとんどで朝と放課後の貸出時間がないため、昼休みしか貸し出し時間がないことである。より多くの生徒に図書室を利用してもらうための工夫や取り組みはこれからも必要である。また、朝読書の時間の確保を徹底し借りた本を読み、返却、新しい本の貸し出しへと繋げていきたい。

「図書館の魅力の発信 ～「思わず入ってみたいくなる図書館」への工夫～」

一関地区SLA 一関市立花泉中学校

1 学校図書館の概要

本校の図書館は特別教室へ向かう通路の途中に位置し、生徒は日常的に図書館の前を行き来する状況にある。そのような図書館に素通りせず立ち寄ってもらうため、図書館内を整えるだけでなく、読書普及員の工夫や図書委員からのアイディアの提供で、外側からも図書館の魅力を発信している。また、読書普及員による計画的な図書の購入や廃棄が行われている。

2 具体的実践内容

(1) 図書館前廊下の利用

人通りの多い図書館前廊下で本の魅力を発信することで、館内に足が向く状況を作っている。具体的取り組みは、以下の通りである。

① 企画展の開催

学校行事や社会の動き等に合わせた企画展を行っている。例えば、社会体験学習の時期には「進路、職業、生き方」をテーマにした図書の展示を行った。また、ヨシタケシンスケ氏や鈴木のりたけ氏の絵本が話題となったタイミングで、大人でも味わえる絵本があることを知らせる「絵本の世界」と題した企画展を開催した。



② 新刊図書の紹介

図書だよりで新刊図書を紹介しているが、実際に新刊を手にとってみるができるように、廊下に展示している。

(2) 購入図書の吟味

魅力的な図書館にするためには、生徒が興味関心を抱く本を置く必要があるが、そのような本が必ずしも中学生にふさわしいものであるとは限らない。そこで、以下の二点を実施し、購入図書の吟味をしている。

① 図書選定基準の作成

図書購入にあたり、内容が中学生にふさわしいものであるかを見極める必要があり、その判断基準を明確に示す図書選定基準の作成に取り組んでいる。「全国学校図書館図書選定基準」を土台とし、本校の実態に合わせた基準の作成を行っているところである。

② 図書選定会議の開催

学校長、図書館教育担当、読書普及員による図書選定会議を必要に応じて実施し、最終的な購入図書の決定をしている。

(3) 生徒自らの図書紹介

① ブックトークの実施

9月に、初めての取り組みであるブックトークを行った。図書館内にある本を紹介した生徒もあり、図書館に足を向けるきっかけともなった。

② ブックレビューの募集

教師側から良書を薦めるだけでなく、生徒の目線で本を紹介することで気軽に本を手にしてほしいという思いから、ブックレビューの募集を行っている。

3 成果と課題

(1) 成果

2学期に入り、着実に図書館利用者が増えている。また、生徒総会の場で「本に興味をもつようになった。」という意見が出され、生徒たちがブックトークやブックレビューの効果を実感している様子がうかがえる。

(2) 課題

現在作成中の選定基準を完成させ、中学生にふさわしく心の成長につながる図書をより円滑に選定できるようにする。

「手の届くところに本を」

陸前高田地区 S L A 陸前高田市立高田第一中学

1 学校図書館の概要

本校は陸前高田市立第一中学校を前身とし、平成30年に気仙中学校と統合し、高田第一中学校として開校した。現在は、高田町、矢作町、横田町、竹駒町、気仙町の5町の小学校区からなっている。

図書館は2階東側に位置し、教室に近い位置にある。統合により蔵書数は約15,000冊で必要数9,040冊に対して十分な冊数を抱えている。震災後、ロータリークラブなどの寄贈により、国語に関連する本が十分に揃えられている。書庫を持っていることから入れ替えに関して十分に活用が出来る。図書館の入り口は2カ所あり、カウンターがやや見えにくい位置になっている。本棚や机は少し高いが、公共の図書館に近い機能となっている。

図書館運営に関しては、市教育委員会より図書館指導員の配置を受けており、図書購入、蔵書管理等で大いに協力を得ている。

2 具体的実践内容

(1) 新刊図書のワゴン設置

例年、生徒の希望により図書を購入しているが、図書館の書架に陳列してしまうと従来の蔵書との見分けがつきにくくなるという反省があった。そこで、新しい購入図書を学年毎にワゴンに入れ、教室前廊下に設置した。生徒達は希望が叶えられたことを実感するとともに、気軽に本を手にとるようになった。

(2) 朝読書の取り組み

本校では、始業から朝の短学活までの時間を全校朝読書の時間としている。生徒は図書館から借りた本や、学級文庫、新刊図書のワゴンで手にした本、あるいは家庭から持ってきた本を読んでいる。生徒達は整然と取り組んでおり、落ち着いた雰囲気です。1日がスタートしている。

(3) 図書委員会活動

生徒会の図書委員会は、昼休みの図書の貸し出しを中心に活動を行っている。利用者数を増やすために、図書館便りの発行やポップ作り、スタンプラリー等の活動を展開している。図書館が3年生教室寄りに位置しているため、1、2年生徒の利用者数増加が課題であるが、生徒の発想による各種取り組みは、その一助となっている。

3 成果と課題

(1) 成果

蔵書の有効活用が従来からの課題であったが、生徒の手に届くやすくすることを旨に各種取り組みを実施し、概ね利用者の増加につなげることができた。特に、図書館以外の場所で本を手にする生徒の姿を見る機会が増えたことは、第一の成果と言える。また、図書指導員の発案により、学区内小学校への蔵書の貸し出しも実施できた。

(2) 課題

若年層の活字離れが叫ばれて久しいが、本校も例外ではない。読解力向上に読書の果たす役割はあまりにも大きい。蔵書の有効利用も含め、意図的、計画的な読書指導は今後さらに強化していく必要がある。

1 学校図書館の概要

生徒数410名の本校は、今年度、新校舎に移転した。図書室は2階にあり、ガラス窓で仕切られているパソコン室とともに本校の情報センターとしての役割を担っている。校庭を臨む窓際には個別に仕切られた読書スペースがあり、開放的な空間となっている。

令和2年度に、日頃市中学校、越喜来中学校、吉浜中学校の3校と統合し、蔵書数は重複本を含めて14,000冊を超える。昼休みに開館し、貸出業務は図書委員会が担う。

また、市から図書ボランティアが派遣されており、今年度は校舎移転に伴う蔵書の配架作業や蔵書点検、その他の図書館運営の補助を行っていただいた。

2 具体的実践内容

(1) 情報センターとしての配架の工夫

校舎移転に伴い、配架を見直した。NDCに沿った配架を中心に、授業や総合的な学習で活用できるように特設コーナーを設けた。特設コーナーは、コーナータイトルを掲示し、書架をマスキングテープで区切って、探しやすくしている。

【特設コーナー】

- ① いわての中高生のためのおすすめ図書100選……全種類揃え、続編も含めて配架した。
- ② 復興・防災……記録の保存として震災の本を優先購入し、防災の本とともに配架した。
- ③ 郷土……岩手出身の作家や、岩手にゆかりの本を集めて配架した。
- ④ キャリア教育……職業選択に関する、NDCの366〔労働経済、労働問題〕と600〔産業〕は向かい合わせに配架し、進路学習や職場体験に生かせるようにしている。
- ⑤ 新書……ジュニア向けの新書を多くそろえ、NDCの分類から取り出して配架している。
小説に偏りがちな朝読書の選書に広がりを持たせるため、入り口に近い場所に配架した。
- ⑥ 新刊図書……新刊図書は手に取りやすい所に一定期間展示して紹介した。
- ⑦ 新聞……今年度から全国紙1部、中高生新聞1部を図書室で読めるようになった。

(2) 朝読書の取り組み

テスト前や学習委員会の取り組みを除く授業前は朝読書を行っている。職員打ち合わせの日以外は担任が教室に入り、朝読書を見守る。統合により同じ本が複数冊あるが、図書室に配架した以外はブックトラックに入れ、学年のフロアに配置して朝読書に活用している。

(3) 教科との連携

国語科と連携し、図書室の利用を促している。課題図書〔いわ100、古典〕を設けて読書に取り組ませ、また、1分間スピーチを活用してお勧めの図書の紹介を行った。

(4) 学習センターとしての活用

長期休みには3年生を対象として、集中して学習したい生徒に図書室を開放した。個人で集中したい生徒は個別の読書スペース、教え合い学習をしたい生徒は大テーブルを使って学習に取り組んだ。

3 成果と課題

【成果】 図書ボランティアのサポートのおかげで、1学期中に図書室を開館することができた。特設コーナーや新聞の配置で、活字に触れる生徒が増えている。

【課題】 図書の配架や特設コーナーも恒久的なものではなく、今後、活用しながら充実を図っていく。朝読書の図書室利用も含め、図書室に足を運ぶ生徒を増やしていきたい。

「読書への関心を高める取り組みについて」

釜石・大槌地区SLA 釜石市立釜石東中学校

1 図書室の概要

本校は全校生徒数 83 名で、新校舎で生活を始めて 9 年目になる。

図書室は毎日昼休みに開放しており、生徒が読書をしたり、借りたりしている。より多くの生徒が来室し読書に感心を持つよう、委員会の生徒と一緒に購入図書を選定を行い、生徒にとって読みやすい本や図鑑などの冊数を増やした。



2 具体的実践内容

(1) 昼休みに図書室を開放し、文化委員が貸し出しの手続きや書架の整理整頓を行っている。本の貸し出し状況を文化委員が把握し、短学活で図書室への来室や本の貸し出し等の呼びかけを行っている。今年度から、図書室の本についてのクイズを作り、昼休みの時間に学年ごとに実施した。

(2) 新刊図書が入荷した際には紹介ポスターを掲示し、利用者の向上を図った。



文化委員制作
「おすすめの本の
紹介ポスター」
(図書室前の廊下に掲示)

(3) 授業においては、1 学年の生徒の夏休みの課題として、図書室にある本で、自分がおすすめしたい本の紹介ミニ新聞を作り、積極的に読書に関われるようにした。



3 成果と課題

生徒目線での新刊図書の購入や、文化委員による学級での呼びかけやクイズの実施により、図書室利用者が増加した。また、図書室にある本の紹介を行うことで、図書室に足を運んで借りる生徒も増えた。これらの活動は、読書への意欲を高めるだけでなく、それぞれの本に対する感想等を交流することで人間関係の醸成にも効果がありそうである。

今後もより一層読書への関心を高めるため、本の紹介や読書活動の推進を図っていきたい。

1 学校図書館の概要

本校の生徒数は 257 名、図書室は 2 階に位置し、蔵書冊数は約 13,000 冊である。図書管理システム「探検隊」を利用して運営している。週 2 回勤務の学校図書館支援員の協力のもと蔵書の整備を行い、読み聞かせボランティアとの連携を図っている。

2 具体的実践内容

(1) 「手に取りやすい学級文庫」

以前は図書室の中で重複した本を用いて学級文庫が作成されていたが、生徒の関心が薄く、あまり読まれていないという実態があった。少しでも生徒が手に取りやすい学級文庫になるよう、今年度は学年ごとの発達段階や生徒の嗜好に合わせた選書を行った。また、生徒が多くの種類の本に触れられるよう、学期ごとにローテーションを行っている。



(2) 「生徒の興味関心に合わせた選書」

全校生徒・教職員を対象に購入希望アンケートを実施し、購入する図書を決定した。本の題名や作者名だけではなく、「増やしてほしいジャンル」を選択してもらい、希望の多かった「物語作品」の他に、「自然科学」や「言語（韓国語）」などのジャンルの本を購入した。また、例年「本屋大賞」にノミネートされた図書を全て購入し、ランキング形式で紹介している。



(3) 「読み聞かせボランティアの活動」

月に一度、朝読書の時間に地域のボランティアによる絵本の読み聞かせ、図書支援員による新聞記事の紹介を実施している。ボランティアには発達段階に合わせた絵本を選書してもらい、「家族」や「戦争」など、様々なテーマについて生徒が考えるきっかけになっている。

3 成果と課題

○生徒の実態に合った学級文庫の選書や、購入希望アンケートの実施によって、生徒が図書室の本に触れる機会を増やすことができた。

○読み聞かせボランティアの活動によって、生徒が様々なテーマの作品に触れることができた。

●図書室を利用する生徒に偏りがある。図書室に足を運ぶことのない生徒が、さらに図書室にある本に興味をもつことができるような取り組みを模索していきたい。

●購入されてから時間が経っている本が散見されるため、廃棄を進め、教科の授業や総合学習で活用しやすい「情報センター」としての役割が担える図書室にしていきたい。

1 学校図書館の概要

本校は全校生徒 29 名の小規模校である。図書室は校舎 3 階中央部に位置しており、オープンスペースのため、気軽に立ち寄ることができる環境である。吹き抜けの広い空間を利用し、季節ごとにレイアウトを工夫している。図書購入の希望調査を行い、生徒の希望に沿った本を購入した。



2 具体的活動内容

(1) 朝読書の実施

原則通年で 8:20 から 8:30 の 10 分間、朝読書を実施している。朝読書用の図書は、各自準備することになっているため自宅から持参する生徒もいるが、図書室に足を運び、読みたい図書を借りる生徒も多くいる。教師も教室に入り、一緒に読書をしている。



(2) 図書委員会の活動

ア おすすめの本コーナー

定例の委員会活動の日に本の入れ替えを行い、季節に合ったおすすめの本を掲示している。

イ 図書だよりの発行

新刊図書の案内やおすすめの本、四字熟語や格言を載せた通信を発行している。

(3) 町立図書館との連携

ア 岩泉町立図書館の「読書マラソン」に合わせた企画

全校生徒でエントリーし、完走賞（4 か月で 10 冊）を目指して取り組んでいる。

イ 団体貸出図書「かもしか号」の利用

夏休みと冬休みの前には、学年ごとに利用時間を調整し、多くの生徒に利用してもらえるよう工夫している。

ウ 図書館支援員との連携

図書の整理や読み聞かせをしていただいている。

3 成果と課題

<成果>

- ・朝読書により、短時間ではあるが 1 日の中で読書をする時間を確保できている。
- ・「かもしか号」を利用することで、学校図書館に置かれていない様々なジャンルの本にも触れることができる。
- ・オープンスペースのため、図書室に足を運びやすい環境にあり、生徒の憩いの場となっている。

<課題>

- ・生徒が読む本に偏りがあり、多岐に渡った本を手にとってもらえるような選書指導が必要である。

1 学校図書館の概要

本校は、全校生徒 162 名、10 学級（特別支援学級含む）の学校である。図書室は 2 階の 1 年生教室の真向かいにあり、昼休み等に利用しやすい場所にある。蔵書数は、約 6,000 冊で、『いわ 100』コーナー、新刊図書、企画展示などを配置している。

昼休みは毎日開放しており、図書委員会が貸し出し業務を担当している。また、月に 1 回の町の巡回移動図書館を利用して、各学級に朝読書用の図書を整備している。

2 具体的実践内容

(1) 移動図書館の利用

月に 1 回、洋野町移動図書館テトラパック号が来校している。図書委員が学級文庫用の本を選んで借りている。

(2) 図書室の利用促進

ア 生徒の読みたい本の選定

図書選定に際しては、全校生徒からリクエストを募り、希望があった本の中から内容等を吟味して選んでいる。新刊図書は、図書室内の目立つ場所にコーナーを作り、廊下からも見えるように配置している。

イ 図書委員会による読書推進

図書委員会は、昼休みの本の貸し出し・返却、書架の整理整頓、本を借りた生徒に配るしおり作成などを行っている。また、委員が図書室の本の中から学級文庫用の本を 20 冊選んで各教室に置いている。学級の実態に合わせて月 2 回入れ換えているので、朝読書の時間に興味を持って手に取る生徒が多い。

ウ 『いわ 100』の活用促進

図書室内に『いわ 100 コーナー』を作り、図書にもわかるようにシールを貼っている。毎年、新 1 年生に『いわ 100』についての紹介を行い、活用を促している。



3 成果と課題

《成果》

年間を通じて朝読書の時間を設けている（テスト期間や行事等の準備期間を除く）ので、日常的に本を読む機会が確保されている。朝の短い時間に読みやすい本や興味関心の高い本を積極的に選定し、生徒が読みたい本を中心に図書室や学級文庫を整備することができた。

《課題》

家庭や地域との連携や読書ボランティア等のかかわりがあまりないので、図書室の整備や選書の助言も含め、環境整備の充実のために連携方法の在り方を検討していく必要がある。

1 学校図書館の概要

本校は生徒数 374 名、16 学級(特別支援学級4含む)の学校である。学校図書館は校舎1階の生徒昇降口近くにあり、生徒も職員も利用しやすい場所に位置している。図書はバーコードで管理されており、蔵書数は 11,731 冊(令和4年度末)である。基本的に昼休みに図書館を開館し、運営は図書館担当と図書委員会が中心となり行っている。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書の実施

朝会があるとき以外の8:20~8:30の10分間、読書に親しむ態度の育成を目的に朝読書を行っている。図書室から借りた本や学級文庫の本、または自分で購入した本など自分の興味関心に合わせた選書をし、落ち着いた態度で静かに読書している。



(2) 図書委員会の活動

①常時活動

平日の昼休みに、図書館の開館と本の貸出・返却手続きを当番制で行っている。並行して、自分のクラスの学級文庫の本の入替を行ったり、全校生徒に読んでもらいたい本をカタログから選んだりする活動を行った。



②朝読書充実期間の実施

学校図書館を身近に感じてもらうために、朝読書を図書室で行う期間を設けている。学級ごとに日にちを割り当て、読む本も図書室で選ぶようにした。



③ポップ作成の取組

夏休みに読んだ本を1冊選び、全校でポップ作成に取り組み、学級ごとに展示した。また、図書室にある本の中から図書委員がお勧めする本をポップにし、興味関心をもってもらうように努めた。

④読みたい本のアンケートの実施

全校生徒を対象に図書室に置いてもらいたい本や読みたい本のアンケートを取り、本を購入する際の参考とした。

(3) 図書支援委員との連携

個人のバーコード作成や本の受入れ手続き等の作業をやっていただき、諸活動の円滑化が図られている。また、「いわ 100」コーナーの設置や新刊本の展示等、視覚に訴えた環境整備にも協力いただいた。

3 成果と課題

○朝読書充実期間の取組は、図書室にある本や雰囲気を知ってもらうために、1年生には特に有効であった。取組後の1年生の利用者数が多かった。

○全校ポップ作成や読みたい本のアンケートの実施は、図書室利用者数の促進につながった。

●図書室利用者が増えたことで、利用マナーに関する問題が出てきた。初期のガイダンスだけでなく定期的に生徒に周知する必要がある。

令和5年度
学校図書館の活用にかかる
実 践 事 例 集

令和6年3月1日発行

岩手県学校図書館協議会

〒020-0851 盛岡市向中野二丁目39番27号
(盛岡市立向中野小学校内)

TEL 019-635-8510

FAX 019-635-8512

E-mail info@iwate-sla.jp